

熊本県立教育センター 共同研究2017 研究紀要リーフレット 46集



研究テーマ

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造



予測困難な時代に、一人・

研究の背景

中央教育審議会答申（平成28年12月21日 P.19）一部抜粋

「社会に開かれた教育課程」の実現

（前略）新しい学習指導要領等においては、教育課程を通じて、子供たちが変化の激しい社会を生きるために必要な資質・能力とは何かを明確にし、教科等を学ぶ本質的な意義を大切にしつつ、教科等横断的な視点も持って育成を目指していくこと、社会とのつながりを重視しながら学校の特色づくりを図っていくこと、現実の社会との関わりの中で子供たち一人一人の豊かな学びを実現していくことが課題となっている。



小学校学習指導要領（平成29年3月公示） **前文** 一部抜粋

（前略）一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

一人が未来の創り手となる

01 研究の目的

「豊かな学び」の姿並びにその学びを実現する手法を明らかにすることを通して、一人一人が「未来の創り手」となる学びを創り出すことを目的とする。

02 研究のビジョン

「未来の創り手」となるために必要な資質・能力とは？
「豊かな学び」を創造する有効な手段・手立てとは？
3年間を見通して、実践・検証を図る。



03 研究のキーワード

「未来の創り手」

自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生を創ることができる姿

「豊かな学び」

自身の存在が認められることを土台とし、よりよい社会づくりや幸福な人生に向かう学び

04 研究へのアプローチ

学校経営，教科等教育，情報活用，特別支援教育のそれぞれの研究の視点から，「豊かな学び」へアプローチする。

現在の
子供たち

研究の視点による
「豊かな学び」への
アプローチ

豊かな学び

を通して

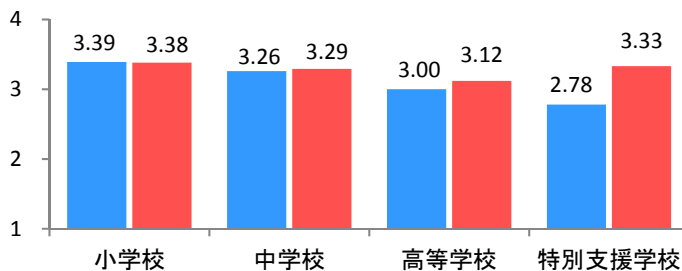
未来の創り手

研究のまとめ

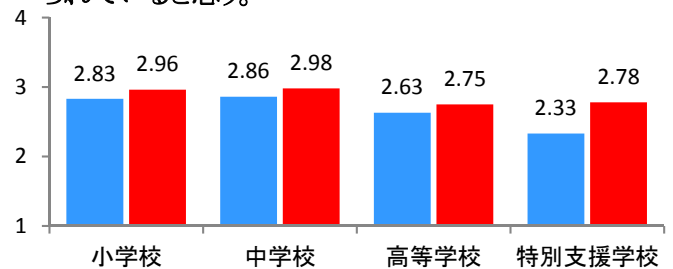
「未来の創り手」について

成長の実感に関する質問紙調査(4件法) 結果比較 ■事前(7月) ■事後(11月)

○自分は、学校生活や学習を通して、自分自身が「分かるようになった、できるようになった」と思う。



○自分は、学校生活や学習を通して、周りの人から、「分かるようになった、できるようになった」ことを認められていると思う。



成長の実感

「未来の創り手」となるには、成長の実感が伴うことが必要ではないかと捉え、質問紙調査を行った結果が上記グラフである。「自分自身が分かるようになった」よりも「周りの人から認められた」の方が数値が低い。「周りの人から認められる」ことを高める手立てを行うことで、相乗的に「自分自身が分かる」ことも高まり、成長の実感につなげられるのではないかと考える。

「豊かな学び」から見てきたもの

各研究の成果

学校経営

学校教育目標の意識化を図り、教育課程に基づいたPDCAサイクルを確立するカリキュラム・マネジメントは、教育活動の質の向上につながるとともに、学校経営を効果的にマネジメントすることに有効であった。

教科等教育

子供たちにとって「見方・考え方」に着目した問いは、学習活動が明確になるだけでなく、新たな課題を発見するなど、学習がつながることを意識することに有効であった。

学習過程を振り返ることは、自身の「分からない」状態を自覚することにつながり、学習後、成長を実感することに有効であった。また、教師からの的確な学びの価値付けは、成長の実感をより強めることが分かった。

情報活用

情報活用に着目した学習活動や言語活動を充実させるICT活用などを取り入れた学習過程の工夫は、考えを深めたり分かりやすく伝えたりするうえで有効であった。

特別支援教育

何を振り返るかを意識できるようにして、表現する活動を行うことは、考えをまとめたり、自他の成長を確認したりするうえで有効であった。

学びの「豊かさ」と、その「豊かさ」のために

子供たちの学びの「豊かさ」だと感じられることについて、次のように整理した。

- 「分からない」ことを自覚し、本当に「分かる」ということを実感すること
- 問いの解決により、更に新たな問いが生まれること
- 自身が学習のゴールを見いだすこと

これらのことから、子供たちが自ら新たな学びを創り出そうとすることが「豊かさ」につながることが分かった。

その「豊かさ」を生み出すには、「分からない」を互いに共有しながら、それを乗り越える学習過程が重要である。その学習過程とは、間違いや失敗をしても繰り返し挑戦できたり、他者との協働により助け合いながら解決したりするなどの学習過程である。つまり、一人一人の可能性を発揮できる場面を設定することが必須であることが見てきた。

また、学校全体で目標を共有し、一人一人の可能性を発揮する場面を設定するよう、教育活動全体に組み込んでいくことも重要である。「学び」とそれを支える「学校経営」が一体となることで、更に効果を発揮するのではないかとということも見てきた。

次年度へのAction

「未来の創り手」の目指す姿として、「自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生を創ることができる姿」としたが、どのような資質・能力を指すのかについて具体的に示す必要があった。そこで次年度は、今年度の成果を基に、「未来の創り手」となる資質・能力を設定し、「未来の創り手」となる「豊かな学び」をより明らかにしていく。さらに、「学び」とそれを支える「学校経営」の効果を検証していくこととする。

学校経営

学校教育目標の実現につながる資質・能力を育む カリキュラム・マネジメント

子供たちの豊かな学びを支えるために、教育課程に基づいた学校経営の効果的・効率的なマネジメントが図られるようにする。

※カリキュラム・マネジメントとは？

「各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくこと」

P ◇学校教育目標の意識化



教育目標	資質・能力	育成力
1. 豊かな心	①自己肯定感の醸成 ②他者理解の促進 ③社会参加の促進	①自己肯定感の醸成 ②他者理解の促進 ③社会参加の促進
2. 学びの意欲	①学習意欲の醸成 ②学習習慣の定着 ③学習成果の発表	①学習意欲の醸成 ②学習習慣の定着 ③学習成果の発表
3. 主体的な学び	①主体的な学びの促進 ②主体的な学びの成果の発表 ③主体的な学びの振り返り	①主体的な学びの促進 ②主体的な学びの成果の発表 ③主体的な学びの振り返り

A ◇改善策の立案

- 各学年の年間指導計画を、実施後の評価を生かして配置し直し、翌年度のプランにつなぐ。
- 「育てたい力」を視点に、児童の姿で行事を振り返り、直後に改善プランを作成して次年度につなぐ。

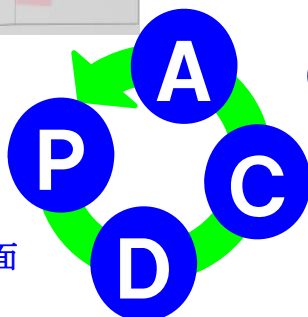
- 学校教育目標の実現につながる「育てたい力」と具体的な児童の姿、教職員の関わりを共通理解する。

P ◇年間指導計画の作成

- 「カリキュラム・マネジメント」の3つの側面
で年間指導計画を作成する。

C ◇学校教育目標の評価

- 「教育活動の評価」「授業の評価」「行事の評価」等を基に、児童の姿で授業や行事、教育課程を振り返り、学校教育目標に近づいたか確認するとともに、課題を明らかにする。



側面 i 教育内容の教科等横断的な配列 年間指導計画例（育てたい力：【共感力】）

側面 ii PDCAサイクル

小学校 教育指導計画（思いやりのあるやさしい子【共感力】） 4年生				※3か月ごとに共感力を育むための実践ができたかチェックをする。できていないものについて										
【共感力】				4月	5月	6月	チェック	7月	8月	9月	チェック	10月	11月	
学校行事（全体）				入学式 歓迎遠足 家庭訪問 身体測定 スポーツテスト 交通安全教室	内科検診 運動会	プール開き ブルー開成 集団宿泊 地震避難訓練						終業式 始業式 都市陸上記録会 スケッチ大会 社会科見学旅行 愛校愛郷作業 教育相談	玉名市音楽会 音楽鑑賞会 火災避難訓練 学習発表会	
教科等	国語			よりよい話し合いをしよう	新聞を作ろう	一つの花	○【共感力】を高めるために、社会や道徳、特別活動等で教科等横断的に「生命」に関する学習を推進した。 ○【共感力】を高めるための教育活動に必要な人的・物的資源を効果的に組み合わせた。							
	社会			火事や地震に備えよう		事故や事件に備えよう								
	算数			半分のちでグループで										
	理科			光の速さを調べよう										
	音楽			明るい歌声をひびかせよう	指の流れるのってリズム	せんりつのはちやうと感								
	図工			絵で表現しよう										
	体育			体を動かそう		ボール								
	家庭科													
	外国語													
	道徳			友誼、信頼	エゴジーンとせいじ	人間愛の金メダル								
玉名学	礼節			1年生のうた	2年生のうた	3年生のうた	中間評価							
	探究			わたしたちの玉名市、昔があって今がある										
	日本語			くちのうた	たのしい	あめのおうた								
	学級活動（内容②）			②4年生に協力して	②休み時間の安全な過ごし方	②おっちゃん、ありがたう（人権学習）								
	児童会活動			②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用								
	クラブ活動			②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用								
	学校行事（学級）			②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用								
	人権教育			②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用								
	生徒指導			②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用								
	内外資源			②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用	②児童会の安全な利用								

D ◇学校教育目標を焦点化した実践（例）

○【共感力】を高めるために、社会や道徳、特別活動等で教科等横断的に「生命」に関する学習を推進した。

○【共感力】を高めるための教育活動に必要な人的・物的資源を効果的に組み合わせた。

中間評価

側面 iii 内外の教育資源の活用

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

子供たちが「見方・考え方」を働かせ、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりしながら、問題を解決していくようにする。

◇「見方・考え方」に着目した問い

問い

「見方・考え方」の文言を入れた問い
 (例) 音楽[中]: 音色や強弱を工夫して表現しよう
 物事の本質・価値を見いだす問い
 (例) 公民[高]: 参院選のあるべき姿は?
 現実の課題について考えさせる問い
 (例) 家庭[高]: 共生社会の実現に向け、社会の一員として子育てにどうかかわるか?

活動の明確化

視点を明確にした議論

実践的な行動の促進

◇単元構成の工夫

試行錯誤の場面を取り入れた単元構成

導入

自分の力で推薦文を書いてみる

展開

物語の内容を詳しく読む

終末

推薦文を書く

(例) 国語[小]: 「推薦カードにまとめ、交流しよう」
 単元の終末に行う物語の推薦文を書く学習を、単元の導入にも行った。

課題発見

単元構成

「見方・考え方」が働くことを見通した単元構成

外国の祭りの文化を捉える

紹介のために情報を再構築し、プレゼンにまとめる

(例) 英語[高]: 「世界の祭りをプレゼンしよう」
 相手・目的意識を明確にし、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、情報を再構築する場面を設定した。

意欲の継続・向上

◇学習活動の工夫

学習活動



(例) 算数[小]
 前時の振り返りを基に、本時の「問い」を確認する活動を取り入れた場面

学習のつながりの意識化



(例) 数学[高]
 「問い」を解決するために、課題が違う者同士で思考を整理する活動を取り入れた場面

協働解決の場の設定

子供たちの「見方・考え方」が働くことに着目する

◇成長の実感につなげる学びの価値付け



何を振り返るか

振り返りの視点の明確化

(例) 国語〔中〕:1枚ポートフォリオの手法を用いた学習活動を振り返るワークシート

情報活用能力の育成を目指す学習過程の工夫

情報活用

各教科等の学習において情報活用能力を身につけることができるようにする。

◇言語活動を充実させるICT活用

ICTを活用して情報を収集・選択・判断したり、互いの考えを分かりやすく伝えたりすることができるようにする。

◇情報活用に着目した学習活動の工夫



子供たちが情報を整理・分析し、まとめ・表現することができるようにする。

(例)農業〔高〕
水田センサーから取得したデータを分析する場面

導入	課題把握 ●解決への見通し
展開前段	個人思考 ●情報整理・分析
展開後段	集団思考 ●考えの共有・比較検討
終末	理解定着 ●情報活用の評価・改善

学習過程全体で、授業のねらいに
応じて活用の場面を設定する。

◇学びを深め合う対話活動の工夫



他者との協働で考えを共有・比較検討し、思考を深めることができるようにする。

(例)算数〔小〕
求積活動で互いの考えを共有する場面

自分の成長や他者のよさに気付くための工夫

子供たちが自他の目標を共有しながら、分かったことやできたことを実感できるようにする。

特別支援教育

◇「振り返り」「対話活動」の工夫

振り返りの工夫

○本時の学びを次の活動に
活かすシートの活用

○振り返りを意識した対話活動の展開

対話活動の工夫

○自分の考えをまとめるための
シートの活用

中学部振り返りシート(抜粋)

1. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

2. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

3. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

4. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

5. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

6. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

7. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

8. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

9. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

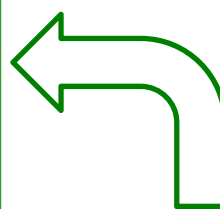
10. 今日の学習の振り返りシート(抜粋)

自立活動〔中〕

高等部学習プランシート

	行う作業	できあがりの配色をイメージする	決まり事を意識する	スムーズに接する	時間内に完成する
練習	練習後の感想(得意・苦手)	色紙の配色をイメージする。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。	決まり事を意識する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。	スムーズに接する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。	時間内に完成する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。
本番	本番に向けての工夫	練習後の感想(得意・苦手)を記入する。本番に向けての工夫を記入する。	決まり事を意識する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。本番に向けての工夫を記入する。	スムーズに接する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。本番に向けての工夫を記入する。	時間内に完成する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。本番に向けての工夫を記入する。
次にか	このときこうしよう	練習後の感想(得意・苦手)を記入する。このときこうしようを記入する。	決まり事を意識する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。このときこうしようを記入する。	スムーズに接する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。このときこうしようを記入する。	時間内に完成する。練習後の感想(得意・苦手)を記入する。このときこうしようを記入する。

美術〔高〕:陶芸



中学部では授業者全員、高等部では教科指導担当・担任間による、個別の目標、指導上の配慮事項等の共通理解を図る。